

# 優劣のかなたに

永田円了

## Desire Beyond You

人はなぜ優劣をつけたがるのだろうか。他者との比較において、自分の優位を保つために、かくも多くの時間とエネルギーを使うのはなぜなのか。一体どのような魔物が私たちの人生を支配しようとしているのだろうか。この魔物の正体を今回の講座では明らかにしてみたい。

### 競争原理 vs. 共生原理

明治に入るまで、日本にはまだ「競争」というコトバは存在しなかった。米国からきた competition という英語に、福沢諭吉が「競争」という訳語をつけて定着したものである。

この競争のお陰で、日本の文明は進歩した。自家用車、冷蔵庫、テレビ、電話などなど生活面での便利さは枚挙にいとまがない。しかし、この競争原理の果てにあるのは、金、権力、成功を我がものにしようとする Win-Lose、一人勝ちゲームの展開である。人間の欲望が競争を招き、競争が格差を生み、格差は人間同士の争いを引き起こす。

私たちは、この人間本来の欲望に身をまかせ「適応」を選ぶべきなのか、それともこの欲望に「対応」する意識をもつべきなのか。



### 適応か、対応か



人間社会に最初の貨幣が登場したのは、紀元前4000年といわれる。それまでの社会は、全ての獲物を平等に分け与えて生活をする村社会、横並び平等主義が仕切っていた集団社会であった。そこに貨幣が登場する。すると、個人の力に応じた分け前を得ようとする競争原理に火がつき、力のある者がより多くの富を手にし、現在の格差社会が生まれたのである。

では、昔の村社会に戻れば幸せになれるのか。いやそうはいかない。いったん目を覚ました競争社会は、勝ち負けのハラハラゲームが展開し、もはや退屈な横並び平等主義の社会には逆戻りはできない。では、この社会に本能のおもむくままに「適応」していいのだろうか。

否、「対応」すべきであろう。エゴに仕切らせてはいけないのである。人間には“気づき”というエネルギーがある。競争というエゴエンジンが全開しそうなとき、気づきという別次元のエンジンとブレーキが作動し、バランスをとるようにできている。

私たちにできることは、この“気づきエンジン”がいざ適時に作動できるよう、たえず緊張感とコーチャビリティを高めて、人生舞台に登ることが要求されているのである。

#### <事例 DVD>

グレタの主張/国連本部でのスピーチ/地球温暖化問題  
ローリングストーンズ/Satisfaction/欲望は永遠に  
Competition を競争と訳す/ブッシュ演説  
トランプ大統領のエゴ/I am better than you  
白雪姫/鏡よ鏡、継母のエゴ  
適応から対応へ/持続可能な社会へ/内橋克人  
大村はま先生/同じ教材を二度使わない  
エゴの波長に乗らない/映画「12人の怒れる男」より  
相手のエゴを包み込む/大河ドラマ「篤姫」より  
脳の仕組み/エゴがどこから  
ラトガーズ大学の実験/格差をどう反応するか  
玉三郎のお金の話  
自然の山には、ボス猿はいない、なぜか  
歌・五木ひろし「大河の一滴」

